

建設通信新聞

オオバ

中計の売上高など上方修正

土木管財の取り組み追加



辻本社長

オオバは、ことし1月に策定した2014年5月期から3年間の中期経営計画を修正する。辻本茂社長は、「基本的な考えは変えないが、(売上高などが)当初の見通しよりも上振れするため、数値目標を上方修正するとともに、土木管財の取り組み強化を新たに追加する方針を明らかにした。15年1月に公表する。

同社は、前中計の売上高や利益などが2年目で目標を達成するため、1月に現中計を策定した。最終年度の16年5月期は、売上高147億円、営業・経常利益7億円、当期

利益6億円に設定している。しかし、2年目の15年5月期は売上高146億円、営業利益8億円、経常利益8億4000万円、当期利益7億2000万円を見込んでいたため、売上高以外は最終年度の目標をオーバーする。

15年5月期の受注は、当初の146億5000万円を150億円に上方修正、計画どおりに進捗しているという。宮城県内の震災復興関係は、受注がピークアウトしつつあるが、福島県での除染業務の受注が貢献して、「復興関係は40億円プラスアルファ」(辻本社長)を見込んでいる。土木管財は同社による造語で、建物の管財業務のように完成後のフォローアップを意味している。同社は、財務省

関東財務局から未利用国有地の管理業務を受注するなど、公有地のアセットマネジメントが事業の柱の1つとなっている。今後は、民間企業や大学などが所有している土地についても、管理業務を受注するだけでなく、付加価値を高める利用方法の提案などをビジネスとして展開する。

辻本社長は、土木管財の売上高比率を現在の約10%から、「近い将来、20%にした」という考えを示した。